

チェリントン・ビーチクリーナーFAQ (2020年10月改訂版)

(お問い合わせが多い項目についてお答えします)

目次

1. 何故、ボランティア作業よりも、ビーチクリーナー使用を勧めるのですか？
2. 輸入品で大丈夫でしょうか？
3. これまでの日本国内での販売実績
4. 回収方法について、ブレード方式、タイン方式、アタッチメント方式のどれが良いですか？
 - (1) 作業に適した砂質は？
 - (2) 掘削深さは？
 - (3) 安全性は？
5. タイヤタイプとキャタピラタイプのどちらが良いですか？
 - (1) 価格面
 - (2) 柔らかい砂地
 - (3) 傾斜地での使用
6. 自走式と牽引式はどちらが良いですか？
7. アフターサービス体制を教えてください
8. 製品種類を教えてください
9. 大型機種と小型機種の性能の違いを教えてください
10. 砂浜清掃以外の用途を教えてください
11. 回収したゴミはどう処分すればよいですか？
12. ビーチクリーナーでの作業中のケガや盗難が心配です
13. 操作は誰でも出来ますか？
14. 自走式 5000 型シリーズと 3000 型の操作上の違いは何ですか？
15. ビーチクリーナーの保管方法はどうすればよいですか？
16. ビーチクリーナーの運搬方法はどうすればよいですか？
公道を走ることはできますか？
17. 注文から納品までの流れを教えてください
18. 代金の支払条件を教えてください
19. 英語が分からないのですが、日本語版マニュアルはあるのでしょうか？
20. ビーチクリーナーに会社のロゴを付けたいのですが？
21. 使用燃料は何ですか？
22. ゴミ以外に漂着油も回収できますか？
23. どの位の大きさまでゴミ回収できますか？
24. 水深何 cm まで作業できますか？
25. 真夏の酷暑下や真冬の厳冬期でも作業できますか？
26. オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律）には適合していますか？
27. ホンダ社のボランティアチームがあれば、ビーチクリーナーを購入する必要はないのでしょうか？

個別回答

1. 何故、ボランティア作業よりも、ビーチクリーナー使用を勧めるのですか？

砂浜海岸の漂着ゴミには花火後のゴミや使用済み注射針や有害な液体が入ったペットボトルやポリタンクなど危険なものも多く、そもそもボランティアがむやみに素手で回収することはお勧めできませんし、地表面の目で確認できる範囲しか清掃できないため、効率が良くありません（実際、筆者も素足で砂浜を歩いていて、誰かが棄てた使用後の花火串を踏みつけてケガをしたことがあります）。

北海道から本州の日本海側沿岸では、毎年春先が一番、ゴミ漂着量が多いことをご存じでしょうか。つまり、春先から真夏の海水浴シーズンが本格化する前に砂浜海岸の漂着ゴミを回収しておくことが大事なのです。

手を触れることなく、安全かつ効率的に回収することが出来るビーチクリーナーを全国的に配備することが必要不可欠と考えております。

2. 輸入品で大丈夫でしょうか？

輸入商品ということで購入を躊躇される方が少なくないかもしれません。弊社は日本の会社であり、筆者も日本人ですから、地産地消的な考えから日本製を選択したいと気持ちを理解できますが、残念ながら現在は日本国内でビーチクリーナーを製造販売している会社は少ないため（しかも、日本国内のビーチクリーナー需要は非常に限られており、ビーチクリーナー専業としてではなく、本業の片手間で事業が行われているのが実情）、世界での販売実績が多い製品を採用されることをおすすめしております。チェリントン・ビーチクリーナーのエンジンはクボタ製水冷式ディーゼルもしくはホンダ製ガソリンエンジンを採用しており、日本国内でフィルター類の調達がしやすいです。

ちなみに米国内で一番売れているのが弊社取扱いのチェリントン（カスポラー社）で、2位がドイツのビーチテック（カスポラー社製）、3位が米国のバーバー社製となっています。

現在、残念ながら Alibaba.com で 安価な中国製のビーチクリーナーのコピー製品が多く出回っておりますが、見た目は本物とそっくりでも、耐久性、実用性が疑わしく、部品調達が難しいものが多いので、くれぐれもお気をつけください。

3. これまでの日本国内での販売実績

弊社は2008年3月よりチェリントン・ビーチクリーナーの販売を開始しております。これまでに弊社からの直納で6台、米国内の斡旋で6台、計12台販売しております（2019年末時点）。残念ながらリーマンショックや東日本大震災後は数度の消費増税による景気低迷、自治体予算縮減等の影響から数件キャンセルございました。現在は状況が少しずつ改善され、複数の企業様、自治体より問い合わせを戴いているところです。弊社が販売を行う前には輸入商社や米軍直接手配により国内では自治体や米軍基地（三沢、沖縄）などに10台程度のチェリントン・ビーチクリーナーの納入実績があります。

4. ブレード方式、タイン方式、アタッチメント方式のどれが良いですか？

弊社取扱チェリントン・ビーチクリーナーはブレード方式（板型）を採用していますが、他社はタイン方式（先が尖ったピン型）を採用しているところが多いです。また、アタッチメント方式は既存のトラクターを活用し、ローラーや掘削装置などで砂を柔らかくしてから、砂を網目のコンベアーに載せて、ゴミだけを回収する方式です。

それぞれ一長一短がありますが、簡単に特性をお知らせしますと、次の通りとなります。

作業に適した砂質は？

ブレード方式→固く締まった砂でも柔らかい砂でもOK。乾燥した砂での作業に最適
タイン方式、アタッチメント方式→柔らかい砂質向き、但し、湿った砂でも作業可能
固く締まった砂地でタイン（ピン）を使うと摩耗するため、交換費用（メンテナンスコスト）が高くかかります。ブレードは厚みがあるため、固く締まった砂地でも問題なく使用できます。ブレードは使い方にもよりますが、10年間は交換不要で、タイン方式よりも経済的です。

（1）掘削深さは？

ブレード方式→8～15cm

タイン式、アタッチメント方式→10～30cm

単純な掘削深さではタイン方式、アタッチメント方式がブレード方式を上回りますが、そもそも回収すべきゴミは地表面もしくは地表面下5cmほどの場所に集中していますから、タイン方式、アタッチメント方式のように深い箇所を掘削する必要はありませんので、ブレード方式の8～15cm程度の掘削で効率的なゴミ回収は十分可能です。

（3）安全性は？

ブレード方式、アタッチメント方式→直接、手で触れてもケガしません

タイン方式→ハリネズミのようにピンがむき出しになっているため、直接接触するとケガをする恐れがあります。幼い子供を近寄せないように配慮する必要があります。

5. タイヤタイプとキャタピラタイプ（併用型を含む）のどちらが良いですか？

お客様からタイヤタイプよりもキャタピラの方が柔らかい砂地や傾斜地では優れているのではないかというお話をいただきます。それぞれ一長一短がありますが、簡単に特性をお知らせしますと、次の通りとなります。

（1）価格面

購入時も購入後もタイヤタイプよりもキャタピラタイプの方が高いです。また、継続使用によりキャタピラの中にある軸が摩耗するため（軸の摩耗のクレームが一番多い）、周期的に交換を要することからメンテナンスコストもかかります。

(2) 柔らかい砂地

通常のタイヤでは柔らかい砂地上ではスタック（砂地に埋まる）する可能性があります。チェリントン・ビーチクリーナーに取り付けているタイヤは安定性に優れた特殊タイヤ（日本国内では製造されていない、塩素が混じった水分が入っている超安定性のフラットタイヤで、軍事用としても使われている）を採用しており、安定性自体はキャタピラとそう大差ありません。万が一、砂地に埋まったとしても、板やスコップにより簡単に救出できます。他方、固く締まった砂地面ではどちらも大差ありません。

(3) 傾斜地での使用

キャタピラタイプはタイヤタイプに比べ、前後方向の傾斜には強いですが、逆に真横方向の傾斜には弱いです。海岸砂浜清掃は通常、海岸線に沿って効率的に作業を行いますから、真横方向の傾斜となり、その意味ではタイヤタイプもキャタピラタイプも条件に大差ありません。

6. 自走式と牽引式ではどちらが良いですか？

どのような目的でビーチクリーナーを使用されるかによりませんが、もし、すでにPTO（油圧出力）付のトラクターをすでにお持ちでしたら、価格の面から牽引式の採用をおすすめします。牽引式のアタッチメント方式には大型のトラクターの前に取り付けるタイプ（ボブキャット、メタル・ジョニカ）や小型の田植え機のように作業員が歩行しながら回収するタイプ（メタル・ジョニカ）です。ダンプ機能がついているなど汎用性が高い反面、ゴミを収納するバケット容積が小さいため、回収ゴミが多いときには清掃場所とゴミ集積場所を何度も往復する手間がかかります。

7. アフターサービス体制を教えてください

交換部品についてはメーカーに在庫があれば、正式発注日より航空便で2週間程度、船便なら2か月程度でお届けすることが可能です。部品さえあればチェリントン・ビーチクリーナーは構造がシンプルなので、街中の自動車・農機具の整備会社でも修理・整備が可能です。出張修理専門の協力会社が横浜にあり、出張修理や持ち込み修理が可能です。

8. チェリントン・ビーチクリーナーの製品種類を教えてください

自走式が5450型、5500型（5450型の冷暖房付きタイプ）、3000型の3種類、けん引式が4600型XL（旧4700型XL）、4500型XL、440型XL（旧740型XL）、800型の4種類、リモコン遠隔操作型の950型の計8種類となっています。

名称にXLとついているけん引式と自走式には機器後方にダンプ機能がついています。

4500型XLは4600型よりも必要とされるPTO能力（油圧出力）が少なく済み、また軸受け（ベアリング）数が少ないため、メンテナンスコストを抑えることができます。

9. チェリントン・ビーチクリーナーの大型機種と小型機種の性能の違いを教えてください

構造そのものは同じですが、馬力と掘削深さ、回収物の大きさが異なります。5000 型シリーズであればタバコの吸い殻からラグビーボール大の石ころまで回収可能です。

10. 砂浜清掃以外の用途を教えてください

他用途としては、グラウンド整備、雑草の除去、競馬場のてい鉄回収、射撃場の薬きょう回収にも活用されています。

11. 回収したゴミはどう処分すればよいですか？

砂浜に漂着したゴミは基本的に一般廃棄物（不法投棄された産業廃棄物ではないという前提）ですので、処分義務者は回収地の市町村となります。管轄の市町村の清掃窓口にご相談ください。

12. ビーチクリーナーでの作業中のケガや盗難が心配です

弊社は AIU 保険会社代理店との提携により、ビーチクリーナー全機種に自動車損害保険を付けることができます。月々のご負担は 1 台あたり 1 万数千円で済みます（加入は任意）。

13. 操作は誰でも出来ますか？

はい、自動車やトラクターを運転できる方なら簡単な操作確認後に運転操作が可能です。操作に特別な資格は不要です。

14. 自走式 5000 型シリーズと 3000 型の操作上の違いは何ですか？

構造そのものは全く同じですが、3000 型にはコンパクト構造にする必要性からブレーキペダルがついていません。その代わりにアクセルレバーを動かさなければ常にサイドブレーキがかかっている状態となっています。慣れれば支障は感じないはずです。

15. ビーチクリーナーの保管方法はどうすればよいですか？

鍵のかかる倉庫やコンテナに保管されることをお勧めします。長期間ご使用頂くため、屋外に置く場合にはせめて雨水との接触を避けるため、ブルーシートなどで保護されることをお勧めします。

16. ビーチクリーナーの運搬方法はどうすればよいですか？

公道を走ることはできますか？

ナンバーを取得すれば公道でも走ることは可能ですが、最高で時速 10km 程度しか出ません。農道を走るトラクターと同様とお考えください。遠距離の場合はトレーラーを使って運搬します。

17. 注文から納品までの流れを教えてください

お客様からのご依頼（電話、メール）に基づき、弊社より見積書をご提示し、お客様にご承諾頂ければ正式契約となります。本来、輸入製品の見積金額は外国為替レートの変動により変更する可能性があります。弊社は契約書の締結をもってメーカーに正式発注しておりますため、契約締

結後に外国為替レートの変動をもって見積、契約金額を変更することはございません（契約後にメーカーに即時入金してレートを確定するため）。なお、チェリントン・ビーチクリーナーを販売するドイツ・カスボラー社では世界的なご注文に応じるべく、常時、全製品とも数台ずつ在庫を確保しており、在庫さえあれば2ヶ月以内の納品が日本国内ならどこでも可能です。なお、お急ぎの場合には輸送料が追加する形で航空便輸送することもできます（その場合、正式ご注文から2～3週間程度でお届け可能です）

18. 代金の支払条件を教えてください

契約にかかる申込金として先に代金の半額を頂戴し、納品後1週間以内に残金全額をご入金頂く形をお願いしております。正式契約後（ご注文後）2ヶ月間が納品までの目安とお考え下さい。なお、部品発注につきましては発注時一括入金をお願いしております。いずれにせよ一度ご相談ください。

19. 英語が分からないのですが、日本語版マニュアルはあるのでしょうか？

心配いりません。納品時に日本語マニュアルを数冊お届けいたします。部品発注もメーカーとの間で弊社が入りますので、日本語で注文できます。

20. ビーチクリーナーに会社のロゴを付けたいのですが？

大丈夫です。無料でご希望のロゴをお付けいたしますので、電子媒体でロゴをお送り下さい（弊社にて費用サービスします）。

21. 使用燃料は何ですか？

自走式の5000型シリーズと3000型が軽油、牽引800型とリモコン式950型がガソリンです。

22. ゴミ以外に漂着油も回収できますか？

はい、回収可能です。1989年に米国アラスカ州で発生した「エクソン・バルディーズ号事故」や2010年メキシコ湾岸油流出事故でも砂浜海岸に打ち上げられた漂着油をチェリントン・ビーチクリーナーで効率的に回収しました。チェリントン・ビーチクリーナーは構造上、乾燥した砂の上にあるドロドロに固化した油の回収に向いています。

23. どの位の大きさまでゴミ回収できますか？

ゴミの形状に応じて、ゴミを回収するための編み目を、1インチ(2.54cm)、0.75インチ(1.9cm)、5/8インチ(1.59cm)、0.5インチ(1.27cm)、3/8インチ(0.95cm)の計5種類用意しています。

馬力があり、回収能力の高い自走式5000型とけん引式4500型XLと4700型XLなら、タバコの吸い殻からラグビーボール大の石ころ、木片、海草類まで一気に回収できます。それ以外の機種はタバコの吸い殻からこぶし大の石ころ、木片、海草類まで回収できます。

24. 水深何cmまで作業できますか？

水中でも地表面が固く締まった場所に限りませんが、5000型ならだいたい水深30cm、3000型なら水深10cm程度まで入り込むことが可能です。

25. 真夏の酷暑下や真冬の厳冬期でも作業できますか？

5500型は運転室に冷暖房装置を付いていますので、酷暑下での長時間作業が可能です（厳冬期に使用されるケースはほとんどないと思われます）。

26. オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律）には適合していますか？

オフロード法は、公道を走行しないバックホウ、フォークリフト、ブルドーザー等のオフロード車の排出ガスを規制するため、2006年（平成18年）4月1日に施行されました。施行日以降に製作された新型車は、排出ガス基準を満たす基準適合表示を付したものでなければ国内では使用できません（但し、2006年（平成18年）4月1日以前に製作されたオフロード車は規制適用外）。

環境省担当課に問い合わせたところ、チェリントン・ビーチクリーナーの自走式は3輪のため、オフロード法（排ガス規制）の対象外となります。また、牽引式も同法対象外です。したがって、チェリントン・ビーチクリーナーについては全機種、日本国内で適法にご使用いただけます。

27. ホンダ社のボランティアチームがあれば、ビーチクリーナーを購入する必要はないのでしょうか？

ホンダ社の現役職員、OBで構成するボランティア清掃チームは全国各地で無償清掃してくれる素晴らしいチームですが、全国に1チームしかなく、また事前予約が必要であり、その権限もホンダ社サイドにあるため、本当に必要な時に利用することが出来ません。環境保全を訴える年1回のイベントであれば事足りるかもしれませんが、目の前の砂浜海岸の景観を維持するためには皆様ご自身でビーチクリーナーを保有いただくのがベストだと考えております。

その他、ご質問がございましたら、株式会社ロックブリッジ宛お問い合わせ下さい。
記録が残るメールのほうが確実にご回答できます。

株式会社ロックブリッジ（担当：岩橋（いわはし））

住所：東京都足立区西新井1丁目38番11-206号 オリエント第6ビル

メール：info@rockbridge.co.jp、電話：03-6807-1029